

「この人 64」

奥脇弘久 81歳 神奈川県

編集部 滑稽俳句を始められたのは？

奥 脇 亡妻の遺句集を編纂したことがきっかけで、十三年位前から俳句を始めました。「俳壇」の「万愚節」の投稿欄に初めて投句しましたら、いきなりの特選。ビギナーズブラックと承知しながらも、のめりこんでしまいました。

編集部 滑稽俳句の魅力とは？

奥 脇 自分の作品ながら、思わず笑えるところでしょうか。ニヤリとする瞬間に、滑稽句ならではの魅力を感じます。

編集部 俳句における「滑稽」とは？

奥 脇 駄洒落や親父ギャグとは全く異なるもの。自他ともに心やわらぐものだと思います。

編集部 滑稽俳句を作るコツは何でしょうか。

奥 脇 分かりませんねえ。苦吟して生まれるものではありませんしね。ただ、自然に出せる「滑稽味」というものを大事にしています。

【代表句】

トンガ産冬至南瓜と知らざりき
新春のドラマの一茶太りすぎ
電飾にしばし我慢の冬木かな
葛餅のつるりと逃げし大師の縁
芒原指揮するすすき定まらず